

就任の挨拶

公益社団法人 日本放射線技術学会
東北部会長 江口 陽一

今年度から東北部会長に就任いたしました江口です。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

今年は何んと言っても平成23年3月11日に発生した東日本大震災から話をはじめする必要があります。千年に一度といわれるこの大震災で、東北地方から関東にかけての太平洋側の地域は地震と津波により甚大な被害を受けました。被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

福島第一原子力発電所の事故以降、国民は放射線の影響についてかつてないほど関心を持ち、また大きな不安をいただいています。特に福島県民は深刻です。

放射線に関連した学術団体として福島県民に何か貢献できることはないのだろうかと役員会で検討した結果、急遽、平成23年7月10日に福島市で「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」を開催いたしました。この市民公開講座を開催するときに、質問の内容が福島県の放射能汚染の現状や行政の批判になるのではないかと懸念していましたが、会場を訪れた方々は、これから現実的に福島で生活して行くためには、放射線・放射能と付合っていく必要があります、放射線と放射能について真剣に勉強しなければならないという決意が伝わってくる市民公開講座となりました。参加人数も547名と多くの市民の皆様にご参加いただき盛況のうちに終了することができました。この市民公開講座の成功は、短い準備時間にもかかわらず、献身的な努力をしていただいた福島県の遊佐理事と丹治理事、それにボランティアで働いていただいた会員の皆様の賜物と感謝しております。

現地福島は原発事故直後のパニックはなくなり、県民の関心は次第に汚染除去や健康面の影響へと争点が変わってきています。本会としては、その時々にあった情報を提供するために、平成24年度も福島市で市民公開講座を開催する予定です。つきましては、会員の皆様には引き続きご支援ご協力をお願いするしだいです。

今年度から東北部会の学術大会は技師会の東北地域学術大会と合同で行うこととなり、名称が「東北放射線医療技術学術大会」となりました。第一回は平成23年10月15日から16日の二日間に亘り“いわて県民情報交流センター・アイーナ”で開催されました。震災の影響が懸念されましたが、一般研究発表には61演題の申込をいただきました。また、参加者も482名と例年を上回り盛会裏に終了することができました。武蔵大会長、小野実行委員長はじめ実行委員の皆様には感謝を申し上げます。

平成24年度の第2回東北放射線医療技術学術大会は、仙台市で平成24年11月3日(土)、4日(日)に開催いたします。本大会は東北部会としては第50回の記念大会となるため記念講演会を予定しておりますので、多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。

前梁川功部会長は多くのセミナー・技術研修会等を東北に誘致され活発な部会運営をなされました。前梁川部会長のご尽力で本部会は大きく成長してきたと思います。この活発な部会運営を今後も継続できるように努めていくのが小生の一番の役割と考えています。微力ではありますが、東北部会の発展のために努力いたす所存ですので、前梁川部会長同様、皆様のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。